

## 大学の世界展開力強化事業（平成29年度採択）事後評価結果

大 学 名	東京大学
整理番号	BI01
事 業 名	プラットフォーム構築事業

### ◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価  <span style="font-size: 2em; font-weight: bold;">S</span>	事業計画を上回る成果をあげており、事業目的は十分に実現された。
<p>コメント</p> <p>本事業は、東京大学の平成26年度に採択された大学の世界展開力強化事業での取組や国内大学のネットワークを踏まえ、プラットフォーム（事務局体制）の構築・運用、ホームページ、掲示板、メールニュース、合同シンポジウム等を通して、産学官の連携を元に合同シンポジウムや留学説明会等を積極的に開催し、日印双方に有用な情報を提供することで、共同実施や協力を促す仕組みを構築することを目指し実施されたものである。</p> <p>事業展開では、シンポジウムを4回、セミナーを3回開催し意見交換やアンケート、日印交流関係機関連絡会等を実施した。コロナ禍により対面での開催は困難になったが、オンラインに切り替え、グループチャットツールや参加者同士で交流できるオンラインの場を設ける等、効率的なオンライン活動を行い、多様な参加者の活動を可能とした。事務局体制が盤石に構築されており、東京大学インド事務所と連携し、大学の世界展開力強化事業採択校以外の大学を巻き込んだ日印交流プラットフォーム構築プログラム（JIEPP）を立ち上げた。それにより、各大学が独自に行ってきた事業を大学間で共有できるようになり、積極的に他大学や産業界との協働に結びつけている。また、日印交流関係機関連絡会で情報共有を行い、交流活性化の動機付けに繋がっていることは評価できる。</p> <p>また、インドでの説明会等を積極的に行い、インドから日本への留学生は、コロナ禍前の平成28年度から令和元年度の間で、学部生は71%、大学院生は20%増加している。コロナ禍により人的交流は中断したが、その間もオンラインを利用した交流を継続しており、コロナ後の日印交流の進展が期待される。プラットフォーム参加校から、今度の事業活動継続の合意が得られており、大学の世界展開力強化事業終了後の発展が期待される点は極めて高く評価される。中間評価における留意事項に対しても好適に対応している。一方で、学生同士の交流を活発化させるための、より一層の取組や更なる交流の拡大、補助期間終了後の効率的な活用に関わる将来構想の構築が期待されている。</p> <p>本事業は、当初予期しないコロナ禍に直面したが、概ね事業計画を上回る成果をあげ、事業目的は十分に実現されたと高く評価された。高い評価、期待に応える継続的、発展的な事業の実施が望まれる。</p> <p>最後に、大学の世界展開力強化事業による補助期間は終了したが、引き続き質保証を伴う発展的な事業展開の実施によって、我が国の大学教育を牽引し、更なるグローバル展開力の強化に寄与されることに期待する。</p>	